

2019(平成31)年度評価実務説明会
配付資料 5

関西大学における 全学内部質保証推進組織を中心とした 内部質保証システムの構築とその体制

関西大学 学長補佐／文学部 教授
堀 潤之



Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

- I 内部質保証システムの概要
- II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み
- III 内部質保証システムと大学評価
- IV 今後の課題

Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

- I 内部質保証システムの概要
- II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み
- III 内部質保証システムと大学評価
- IV 今後の課題

千里山キャンパス

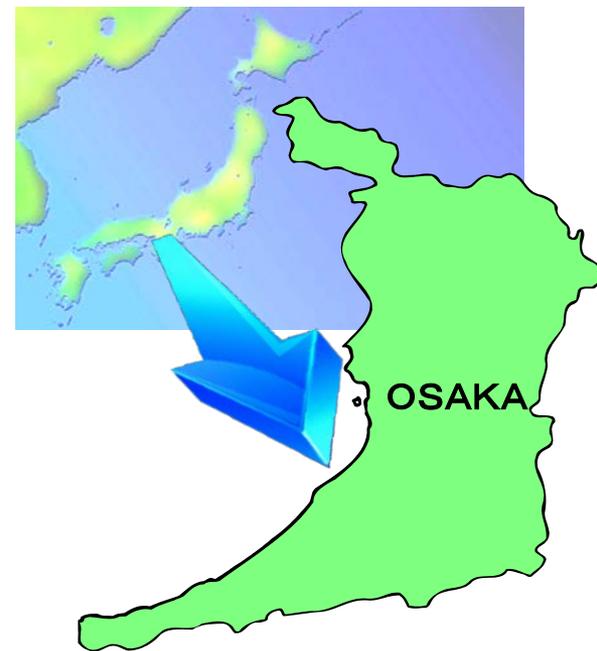
法学部／文学部／経済学部／商学部／社会学部／政策創造学部／外国語学部
／システム理工学部／環境都市工学部／化学生命工学部

法学研究科／文学研究科／経済学研究科／商学研究科／社会学研究科／理工学研究科
／外国語教育学研究科／心理学研究科／東アジア文化研究科／ガバナンス研究科

法科大学院／会計専門職大学院／臨床心理専門職大学院

留学生別科(日本語・日本文化教育プログラム進学コース)

関西大学第一高等学校・第一中学校／関西大学幼稚園



高槻キャンパス

総合情報学部／総合情報学研究科

高槻ミューズキャンパス

社会安全学部／社会安全研究科
関西大学初等部・中等部・高等部

堺キャンパス

人間健康学部／人間健康研究科

梅田キャンパス

北陽キャンパス

関西大学北陽高等学校・中学校

東京センター

海外拠点

日本EU研究センター(ベルギー)
上海オフィス、バンコクオフィス
台湾オフィス、北京オフィス

学部数等

学部:13 研究科:13 専門職大学院:3 留学生別科:1 併設校:高等学校3 中学校3 小学校1 幼稚園1

学生数

学部学生28,872人 大学院学生1,557人 専門職大学院学生206人 併設校生徒等4,950人

教職員数

大学専任教員742人 併設校教員242人 事務職員484人

※2018年5月1日現在の人数



KANSAI UNIVERSITY

Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

I 内部質保証システムの概要

II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み

III 内部質保証システムと大学評価

IV 今後の課題

I 内部質保証システムの概要(大学評価結果から)

基準2 内部質保証

<概評>

内部質保証を推進する全学的な組織として2016(平成28)年に「内部質保証推進プロジェクト」を設置し、「内部質保証の方針」を整理して全学的に共有している。全学的な内部質保証は、学長の責任のもと、教育、研究、社会貢献について「内部質保証推進プロジェクト」を中心に、大学執行部、教育推進部、研究推進部、社会連携部、国際部、「学部長・研究科長会議」「自己点検・評価委員会」「教学IRプロジェクト」が連携して取り組んでいる。特に教育については、マクロ(全学)・ミドル(カリキュラム)・ミクロ(授業)の3つのレベルでのPDCAサイクルを構築しており、マクロレベルでは、「Kandai Vision 150」に基づいて5年間の中期行動計画を策定し、毎年次年度の計画を見直しながら改善に取り組んでいる。「内部質保証推進プロジェクト」では、全学的な内部質保証に関わる課題の検討を行っているほか、中期行動計画の見直し内容の確認や、学部・研究科その他部局へのヒアリングによる課題の整理等を通じて改善への支援を行っている。

I 内部質保証システムの概要(大学評価結果一方針と組織)

基準2 内部質保証

<概評>

内部質保証を推進する全学的な組織として2016(平成28)年に「内部質保証推進プロジェクト」を設置し、「内部質保証の方針」を整理して全学的に共有している。全学的な内部質保証は、学長の責任のもと、教育、研究、社会貢献について「内部質保証推進プロジェクト」を中心に、大学執行部、教育推進部、研究推進部、社会連携部、国際部、「学部長・研究科長会議」「自己点検・評価委員会」「教学IRプロジェクト」が連携して取り組んでいる。特に教育については、マクロ(全学)・ミドル(カリキュラム)・ミクロ(授業)の3つのレベルでのPDCAサイクルを構築しており、マクロレベルでは、「Kandai Vision 150」に基づいて5年間の中期行動計画を策定し、毎年次年度の計画を見直しながら改善に取り組んでいる。「内部質保証推進プロジェクト」では、全学的な内部質保証に関わる課題の検討を行っているほか、中期行動計画の見直し内容の確認や、学部・研究科その他部局へのヒアリングによる課題の整理等を通じて改善への支援を行っている。

内部質保証の方針(2017年2月15日策定・公表)

社会の多様化が進む中、高等教育機関として社会の負託に応えるため、関西大学の教育、研究、社会貢献について、学是「学の実化」や教育研究上の目的等を念頭に置き、質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示する内部質保証の取組を恒常的に推進する。

内部質保証の方針(2017年2月15日策定・公表)

内部質保証の範囲 || 教育・研究・社会貢献

I 内部質保証システムの概要(大学評価結果—組織体制)

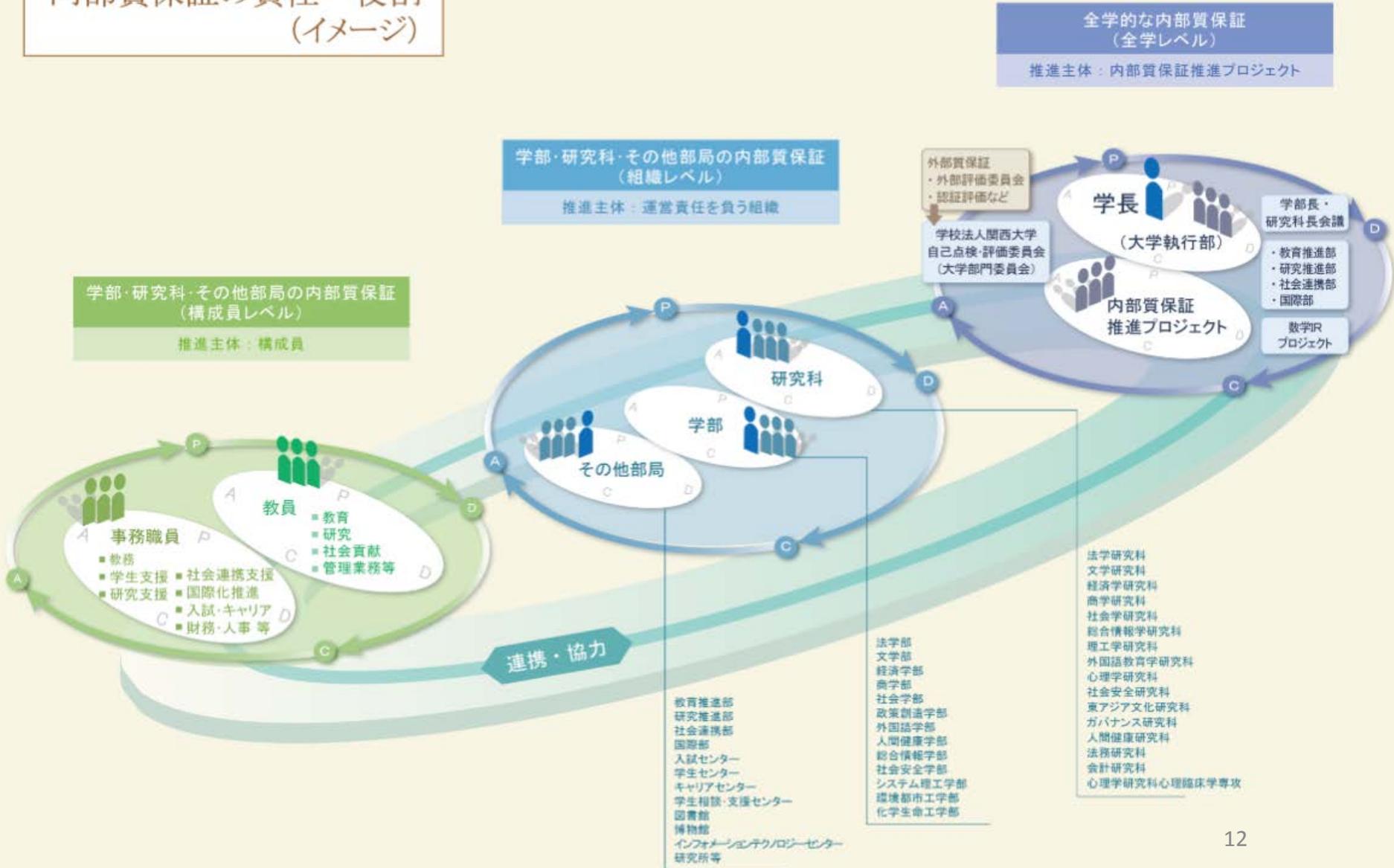
基準2 内部質保証

<概評>

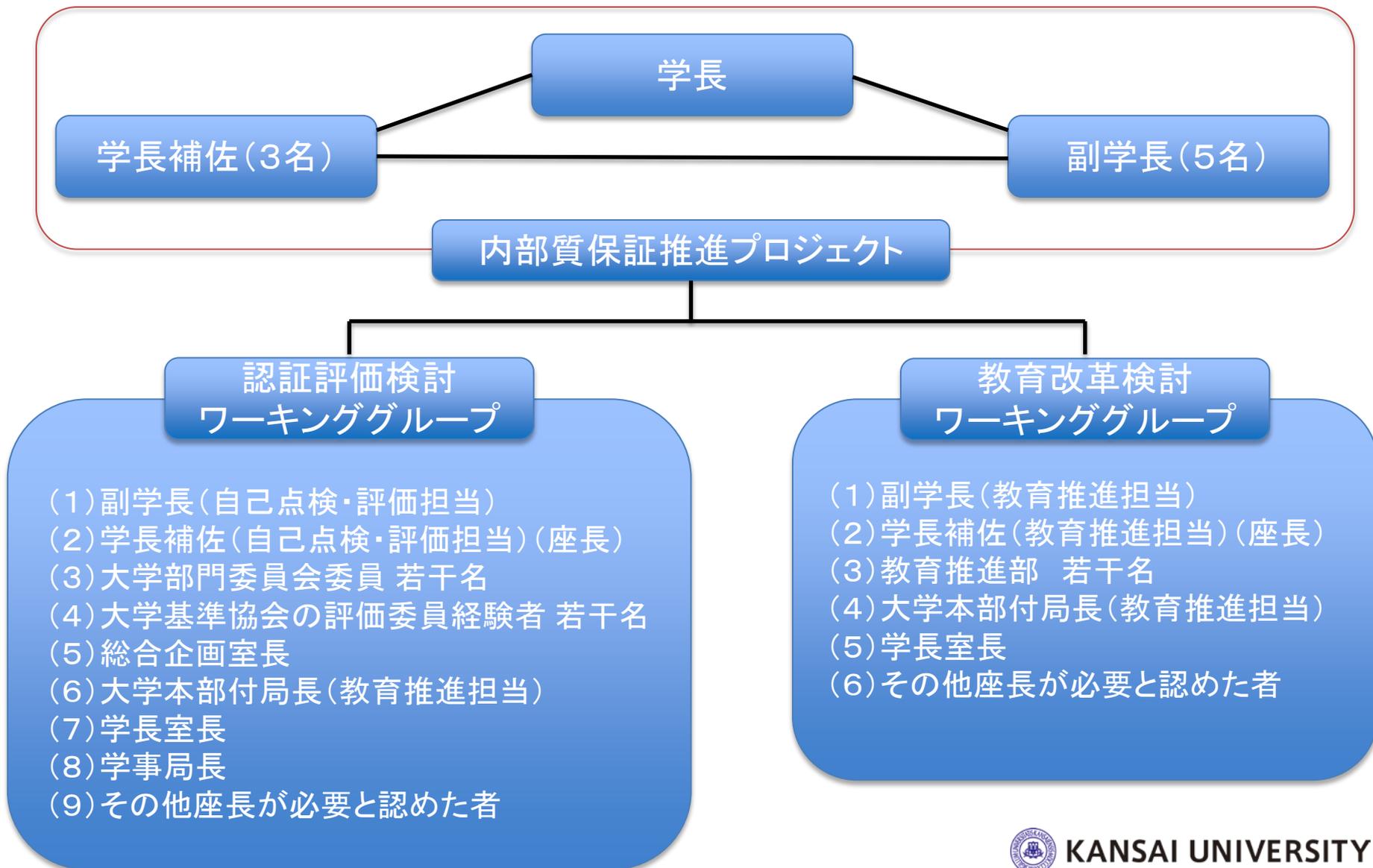
内部質保証を推進する全学的な組織として2016(平成28)年に「内部質保証推進プロジェクト」を設置し、「内部質保証の方針」を整理して全学的に共有している。全学的な内部質保証は、学長の責任のもと、教育、研究、社会貢献について「内部質保証推進プロジェクト」を中心に、大学執行部、教育推進部、研究推進部、社会連携部、国際部、「学部長・研究科長会議」「自己点検・評価委員会」「教学IRプロジェクト」が連携して取り組んでいる。特に教育については、マクロ(全学)・ミドル(カリキュラム)・マイクロ(授業)の3つのレベルでのPDCAサイクルを構築しており、マクロレベルでは、「Kandai Vision 150」に基づいて5年間の中期行動計画を策定し、毎年次年度の計画を見直しながら改善に取り組んでいる。「内部質保証推進プロジェクト」では、全学的な内部質保証に関わる課題の検討を行っているほか、中期行動計画の見直し内容の確認や、学部・研究科その他部局へのヒアリングによる課題の整理等を通じて改善への支援を行っている。

I 内部質保証システムの概要(イメージ図)

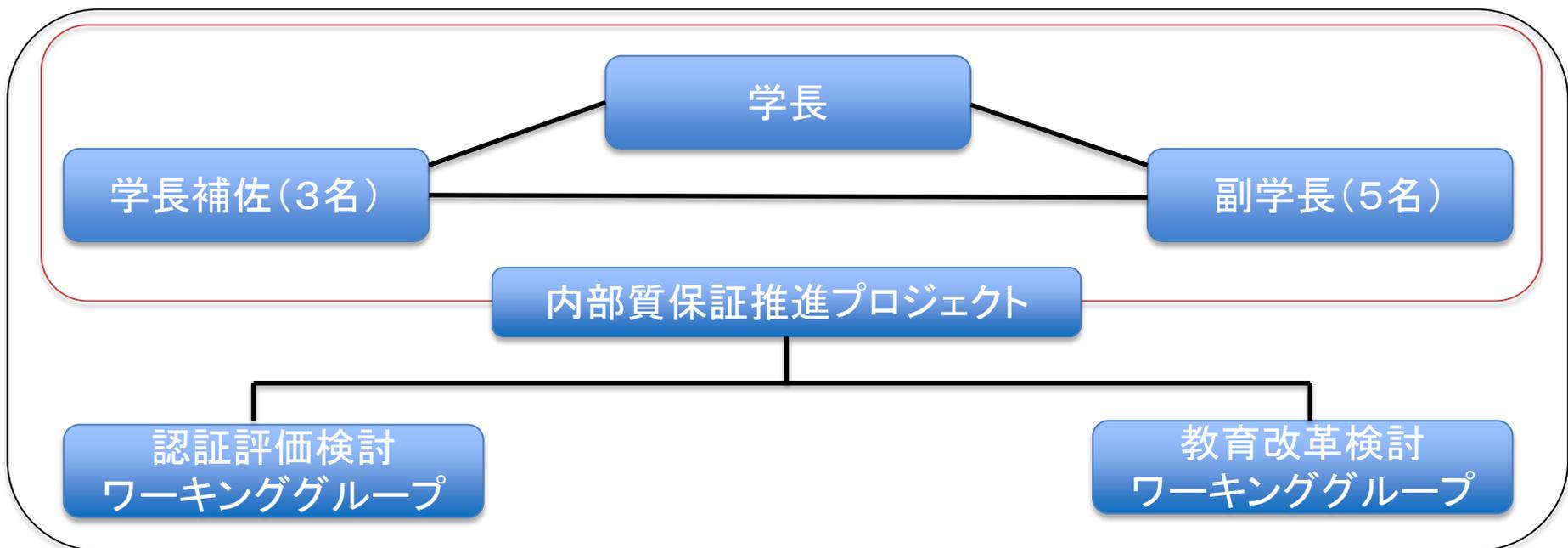
内部質保証の責任・役割 (イメージ)



I 内部質保証システムの概要(内部質保証推進プロジェクト)



I 内部質保証システムの概要(全学レベル)



学生調査等の
レポート

教学IRプロジェクト



各部署の点検・評価結果の上程
大学全体の観点の点検・評価の
フィードバック

学校法人関西大学
自己点検・評価委員会
(大学部門委員会)



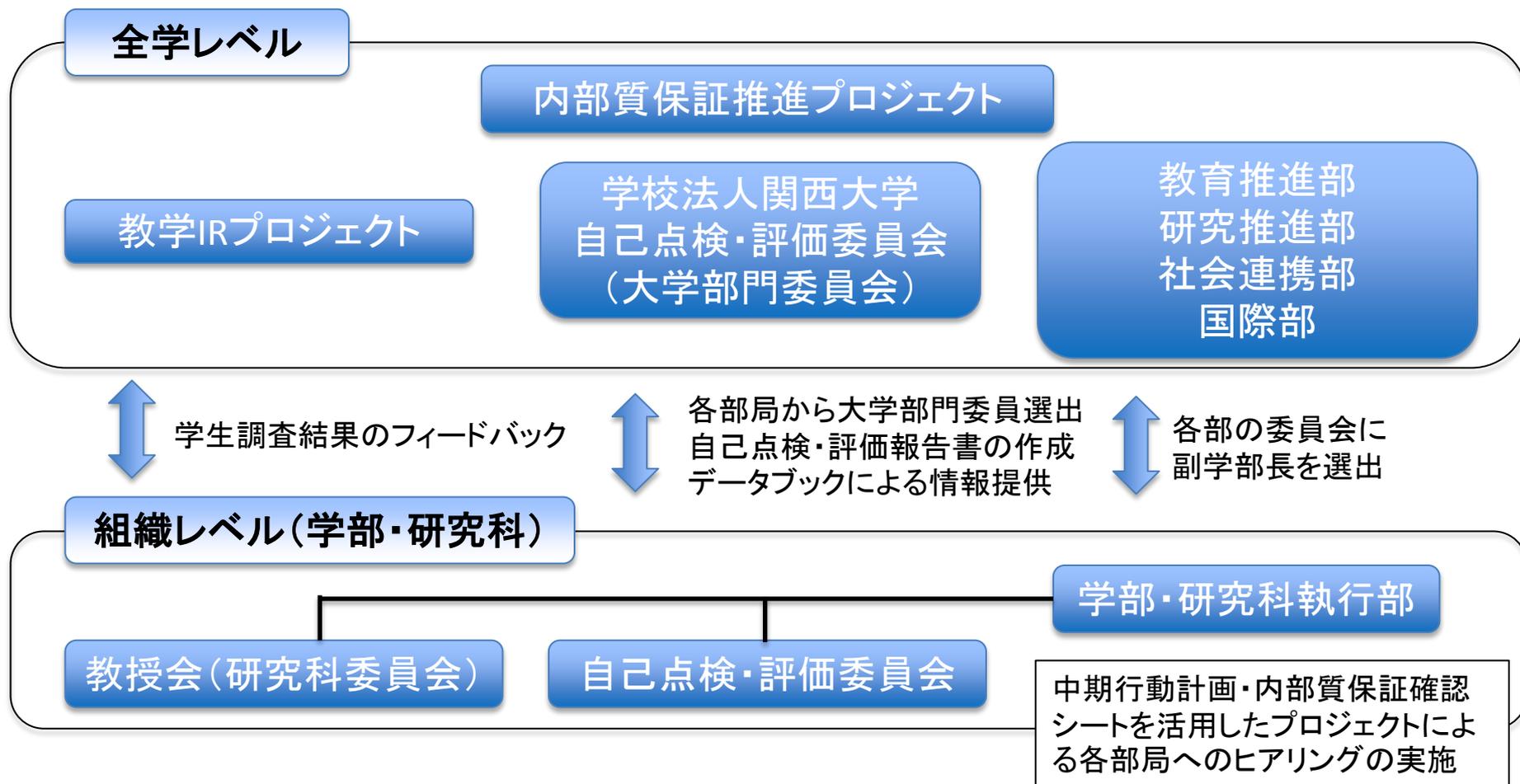
方針・課題等の報告・相談

教育推進部
研究推進部
社会連携部
国際部

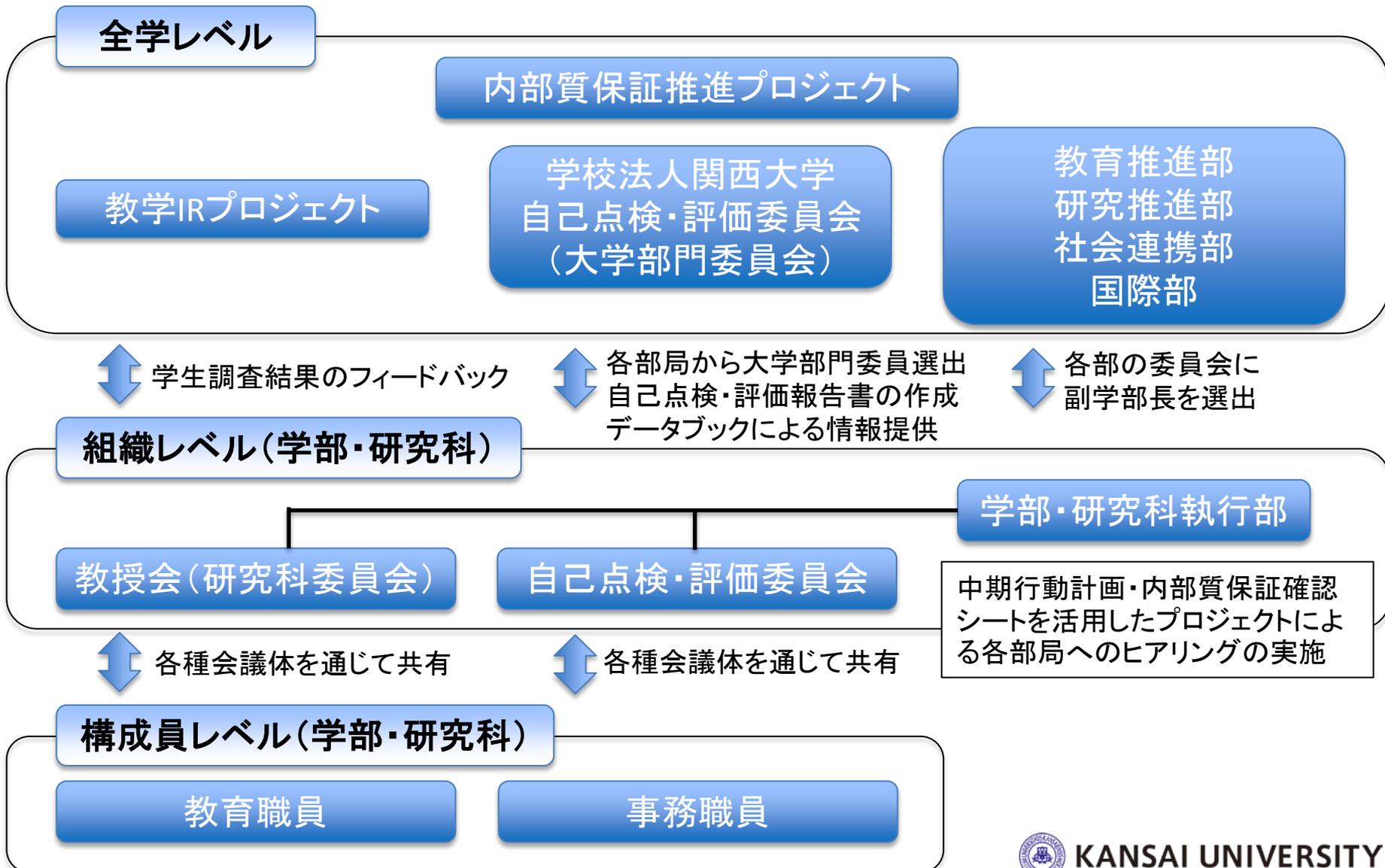


KANSAI UNIVERSITY

I 内部質保証システムの概要(全学・組織レベル)



I 内部質保証システムの概要(全学・組織・構成員レベル)



Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

- I 内部質保証システムの概要
- II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み**
- III 内部質保証システムと大学評価(認証評価)
- IV 今後の課題

Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(大学評価結果)

基準2 内部質保証

<概評>

内部質保証を推進する全学的な組織として2016(平成28)年に「内部質保証推進プロジェクト」を設置し、「内部質保証の方針」を整理して全学的に共有している。全学的な内部質保証は、学長の責任のもと、教育、研究、社会貢献について「内部質保証推進プロジェクト」を中心に、大学執行部、教育推進部、研究推進部、社会連携部、国際部、「学部長・研究科長会議」「自己点検・評価委員会」「教学IRプロジェクト」が連携して取り組んでいる。特に教育については、マクロ(全学)・ミドル(カリキュラム)・ミクロ(授業)の3つのレベルでのPDCAサイクルを構築しており、マクロレベルでは、「Kandai Vision 150」に基づいて5年間の中期行動計画を策定し、毎年次年度の計画を見直しながら改善に取り組んでいる。「内部質保証推進プロジェクト」では、全学的な内部質保証に関わる課題の検討を行っているほか、中期行動計画の見直し内容の確認や、学部・研究科その他部局へのヒアリングによる課題の整理等を通じて改善への支援を行っている。



II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(イメージ図)

内部質保証の手續・運用 (イメージ)

学部・研究科・その他部局及び全学的な内部質保証は、いずれも次の枠組みを基軸としつつ、柔軟に推進する。
中心の大きなPDCAは全体像を示し、小さなPDCAはそれぞれ枠組みごとにもPDCAが循環していることを示している。



* 目的：学則第1条、大学院学則第1条及び第2条

** 教育研究上の目的：学則第2条の2、大学院学則第3条の2、法務研究科学則第2条、会計研究科学則第2条、心理学研究科心理臨床学専攻学則第2条

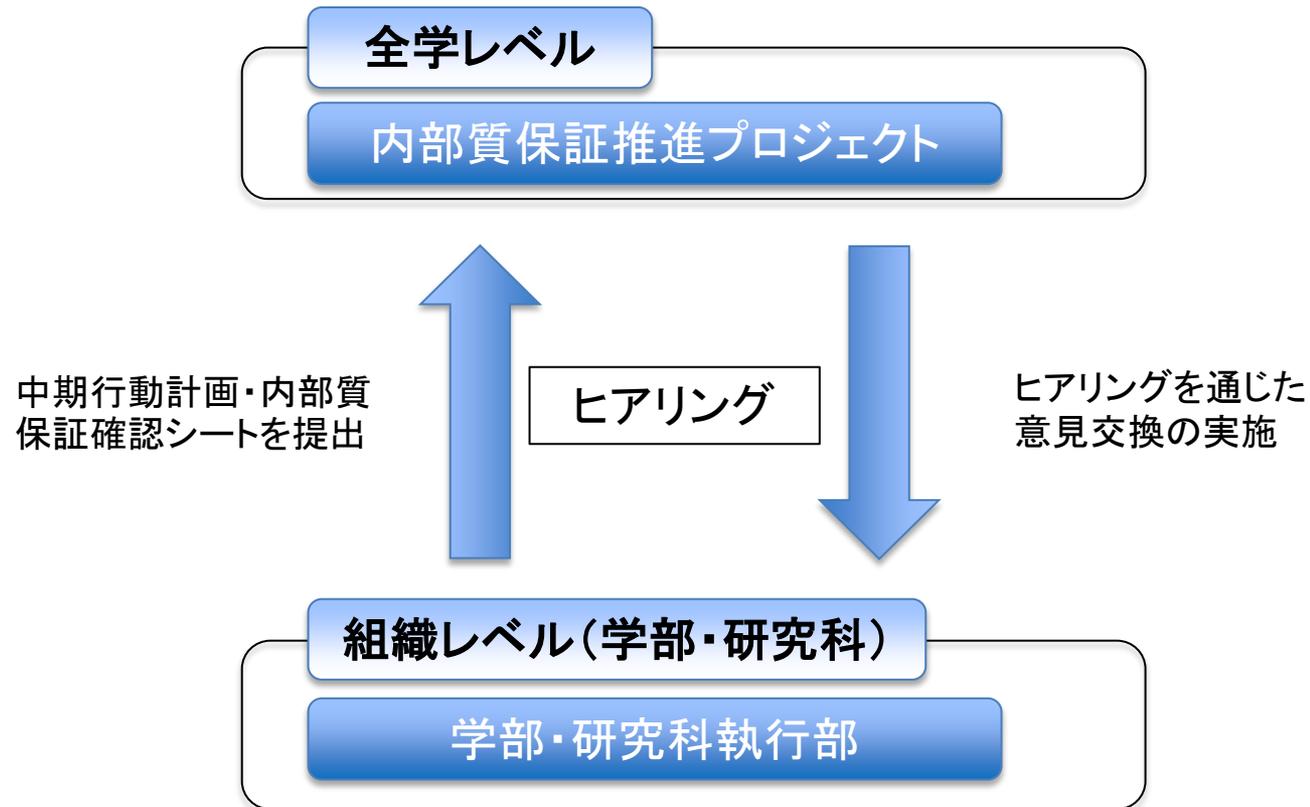
Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例)

1. 中期行動計画、内部質保証確認シートといったツールを通じた学部・研究科との連携
2. 「内部質保証推進プロジェクト」に端を発した課題提起による学部・研究科への助言・支援
3. 教育、研究、社会連携、国際化を担う全学組織である4部との連携・調整

Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例)

1. 中期行動計画、内部質保証確認シートといったツールを通じた学部・研究科との連携
2. 「内部質保証推進プロジェクト」に端を発した課題提起による学部・研究科への助言・支援
3. 教育、研究、社会連携、国際化を担う全学組織である4部との連携・調整

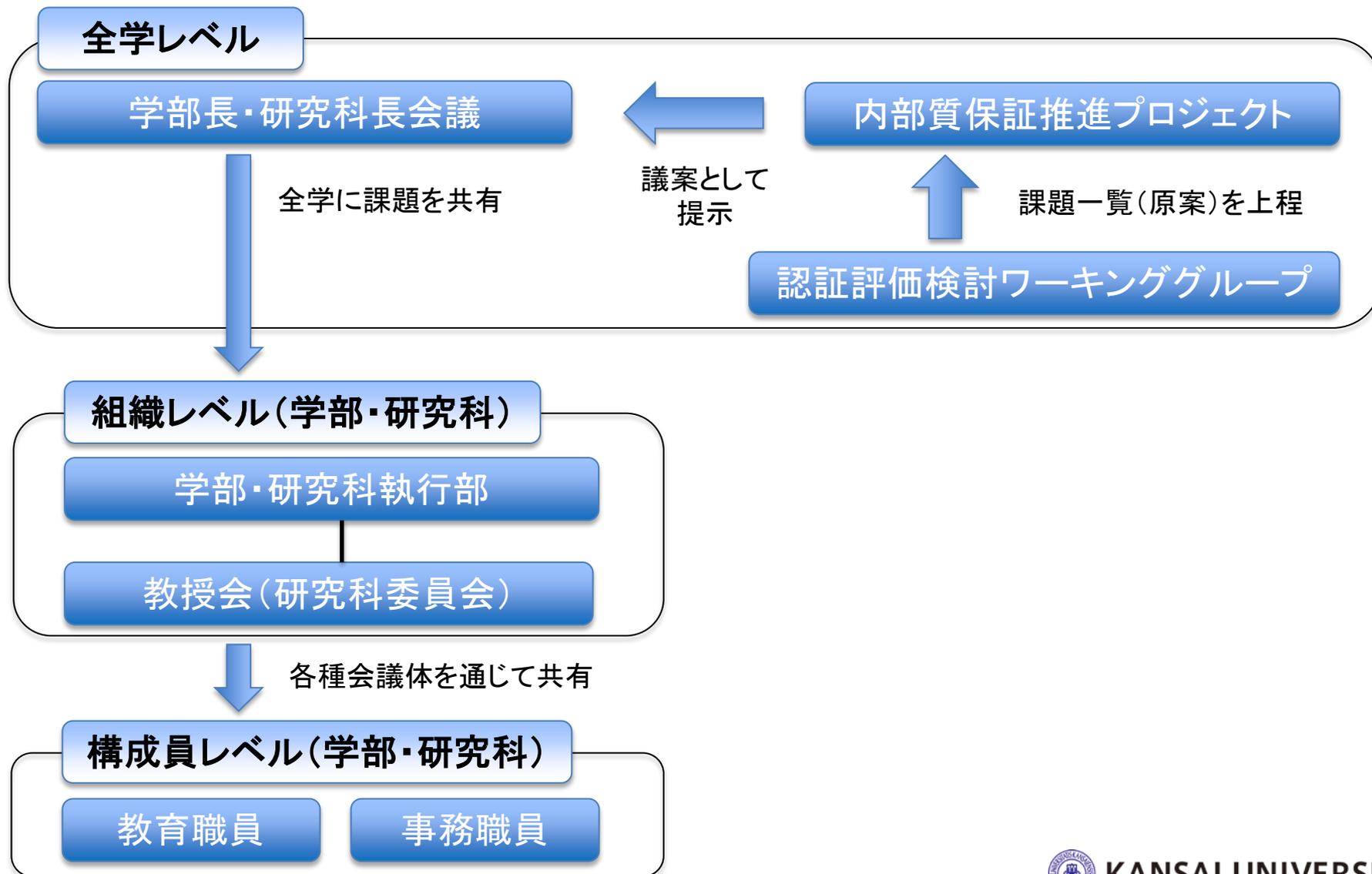
Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例①)



Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例)

1. 中期行動計画、内部質保証確認シートといったツールを通じた学部・研究科との連携
2. 「内部質保証推進プロジェクト」に端を発した課題提起による学部・研究科への助言・支援
3. 教育、研究、社会連携、国際化を担う全学組織である4部との連携・調整

Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例②)



Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例②)

基準	評価の視点	留意点	取組状況 ※
4	◇各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成にあたっての順次性・体系性への配慮	教育課程の編成にあたっての順次性・体系性への配慮が特に求められる(ナンバリング、カリキュラム・マップ等)。	<p><u>着手</u> 2017年4月からナンバリングを全学的に導入すべく2017年1月の教育推進委員会で各学部・研究科に依頼済。2018年4月にはカリキュラムマップ、カリキュラムツリーの策定及びナンバリングの再構成を目指し、2017年4月以降、各学部・研究科に教育推進委員会を通じて方針を提示して依頼予定。</p>

※取組状況は2017年2月15日現在のものである。

(2017年2月15日開催の学部長・研究科長の際に周知した資料を基に作成)



Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例②)

基準	評価の視点	留意点	取組状況※
4	◇各学部・研究科において効果的に教育を行うための措置 ・研究指導計画(研究指導の内容・方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	研究指導計画(研究指導の内容・方法、年間スケジュールの明示とそれに基づく研究指導の実施)が求められる。	<u>未着手</u> 指導教員が院生に示す研究指導計画はない。 →指導教員から院生に示す研究指導計画を導入する、あるいは院生が作成した研究計画に指導教員がコメントを付す等の変更を行う場合、2018年4月に向けた検討が必要になる。

※取組状況は2017年2月15日現在のものである。

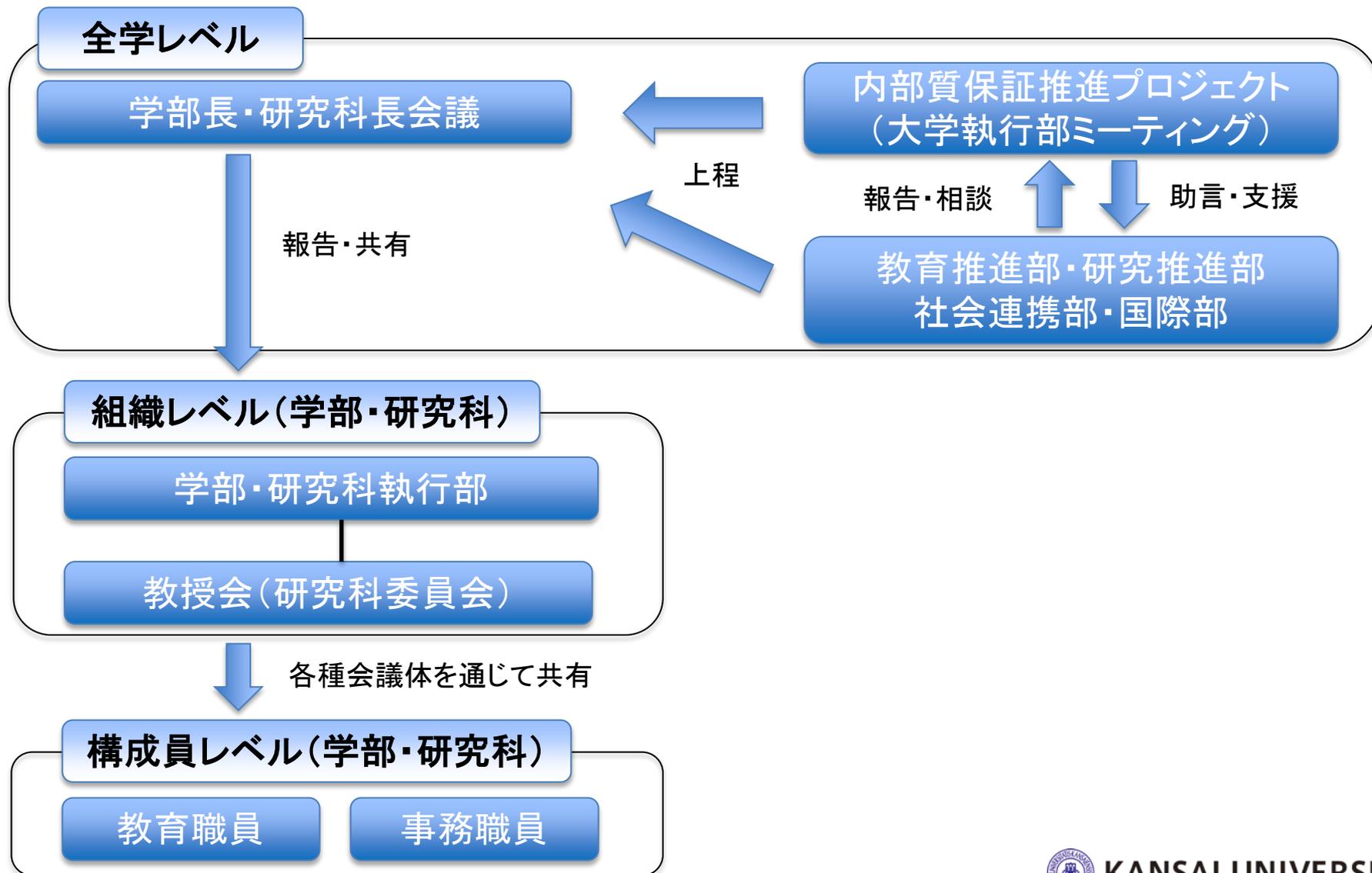
(2017年2月15日開催の学部長・研究科長の際に周知した資料を基に作成)



Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例)

1. 中期行動計画、内部質保証確認シートといったツールを通じた学部・研究科との連携
2. 「内部質保証推進プロジェクト」に端を発した課題提起による学部・研究科への助言・支援
3. **教育、研究、社会連携、国際化を担う全学組織である4部との連携・調整**

Ⅱ 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み(改善事例③)



Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

I 内部質保証システムの概要

II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み

III 内部質保証システムと大学評価

IV 今後の課題

Ⅲ 内部質保証システムと大学評価(大学評価結果の概要)

I 判定

2018(平成30)年度大学評価の結果、関西大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。

Ⅲ 概評及び提言

長 所:8つ

(基準4「教育課程・学習成果」:3つ、基準6「教員・教員組織」:1つ、
基準7「学生支援」:1つ、基準9「社会連携・社会貢献」:2つ、
基準10(1)「大学運営・財務(大学運営)」:1つ)

改善課題:2つ

(基準4「教育課程・学習成果」:1つ、基準5「学生の受け入れ」:1つ)

是正勧告:なし

Ⅲ 内部質保証システムと大学評価(大学評価結果の概要)

I 判定

2018(平成30)年度大学評価の結果、関西大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。

Ⅲ 概評及び提言

長 所:8つ

(基準4「教育課程・学習成果」:3つ、基準6「教員・教員組織」:1つ、
基準7「学生支援」:1つ、基準9「社会連携・社会貢献」:2つ、
基準10(1)「大学運営・財務(大学運営)」:1つ)

改善課題:2つ

(基準4「教育課程・学習成果」:1つ、基準5「学生の受け入れ」:1つ)

是正勧告:なし

1. 基準4 教育課程・学習成果

- 「単位の実質化」に関する指摘

2. 基準5 学生の受け入れ

- 「学部・大学院の収容定員」に関する指摘

I 内部質保証システムの概要(改善課題①)

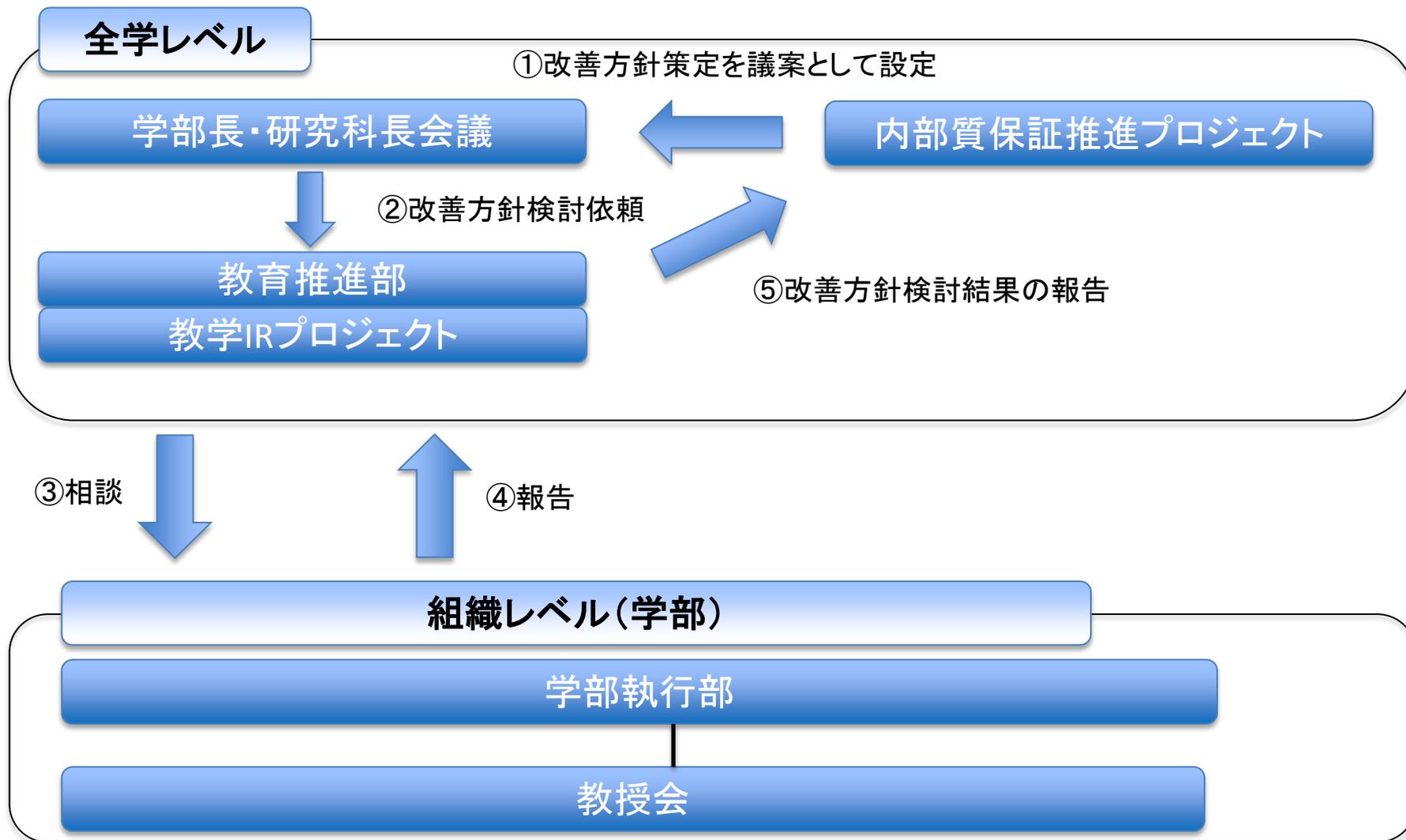
基準4 教育課程・学習成果(「単位の実質化」に関する指摘)

<概評>

改善課題

1) 単位の実質化を図るため、すべての学部で1年間に履修登録できる単位数の上限が設定されているものの、教職資格取得に関わる科目やインターンシップ科目等多岐にわたる科目について、すべての学部で履修登録単位数の上限を超えて履修することを認めている。また、「ライティングラボ」など授業時間外の学習を促す取組み等を行っているものの、単位の実質化を図る措置としては十分ではない。これらのことから、単位制の趣旨に照らして改善が求められる。

I 内部質保証システムの概要(改善課題①)



I 内部質保証システムの概要(改善課題②)

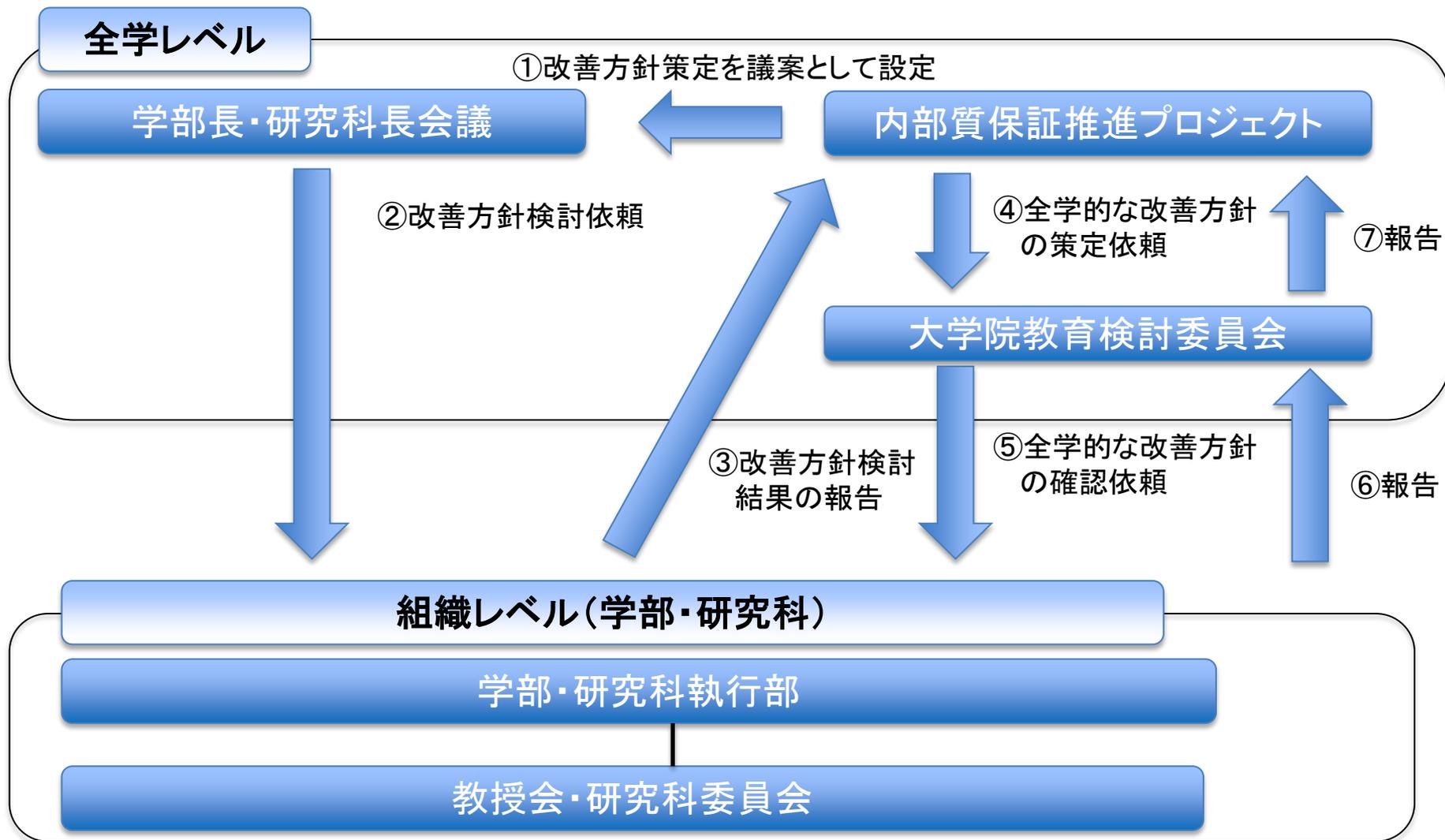
基準5 学生の受け入れ(「学部・大学院の収容定員」に関する指摘)

<概評>

改善課題

1) 収容定員に対する在籍学生数比率について、学士課程において、政策創造学部国際アジア法政策学科では1.27と高い。また、博士課程前期課程において、法学研究科が0.45、経済学研究科が0.42、総合情報学研究科が0.36、ガバナンス研究科が0.43と低く、東アジア文化研究科が2.38と高い。さらに、博士課程後期課程においては、経済学研究科が0.20、商学研究科及び理工学研究科が0.28と低い。一方で、外国語教育学研究科では2.78と高いので、学部及び研究科の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。

I 内部質保証システムの概要(改善課題②)



Introduction

(学校法人関西大学の紹介・教学の意思決定システム)

I 内部質保証システムの概要

II 内部質保証システム等を活用した改善の仕組み

III 内部質保証システムと大学評価

IV 今後の課題

- 自己点検・評価体制の見直し
 - 自己点検・評価体制のあり方(内部質保証推進推進プロジェクトの位置づけやあり方の検討、教学IRプロジェクトの取組み内容(「内部質保証確認シート」)の整理)
 - 分野別外部評価の導入
 - 自己点検・評価報告書のシート化の検討
- 内部質保証推進プロジェクト体制の見直し

ご清聴ありがとうございました。

